

# 隨泉寺寺報

平成 26 年 (2014 年) 9 月号 第 529 号

TEL 082-892-0217 http://www.zuisenji.com

浄土真宗本願寺派 高峯山隨泉寺

秋季彼岸会法要

講師 法泉寺住職 川上順之師

講題 『生死をこえる道』

## ☆ 広島市の安佐南・安佐北区の大規模な土砂災害は

災害が発生から 10 日あまりとなりますが、今も 12 の避難所に合わせておよそ 1400 人が避難していて、避難生活の長期化による影響が懸念されます。

29 日に坊守・若院と 3 人でボランティアに行っていました。想像以上の惨状でどこから手をつけていいのかわからないといった状態でした。20 年前の隨泉寺の災害を思い出し、涙が止まりませんでした。山から土砂が流れ出すことなんか微塵にも想像していませんでしたが、災害というのは不意に襲ってきます。

あの時、ご門徒の皆さんが、普段は足が痛かったり、腰が悪かったりする人が、手に手にスコップや、鍬を持って駆けつけてくださいました。それがどれだけ勇気になったか、励まされたか、思い出しました。

避難者からは体にたまった疲れやストレス、それに今後の生活の不安などを訴える声が相次いでいて、避難生活の長期化による影響が懸念されます。これからも微力ながらも支援していきたいと思っています。

### 9 月の法座予定

- 9 月 2 日 ..... 本部役員会
- 9 月 14 日 ..... 掃除 鴨の巣団地
- 9 月 15 日朝席午前 10 時より ..... 主婦の集い おとき
- 9 月 15 日昼席午後 1 時より ..... 秋季彼岸会法要
- 10 月 2 日午後 5 時より ..... 門信徒会本部役員会

## ☆ 研修旅行

今年も研修旅行に参ります。行先は江田島市の深江宗頭寺(西山住職)と沖美の専念寺(寺尾住職)飛渡瀬の妙覚寺(長坂住職)の三か寺です。深江宗頭寺(西山住職)は遠縁になるお寺です。西山住職は永年ご本山に奉職され、若院や若坊守もお世話になりました。



沖美の専念寺は鴨の巣の寺尾さんのご実家のお寺です。

もとは真言宗のお寺でしたが、文禄 3 年(1594)に浄土真宗に改宗しました。大型の本堂は安政 5 年(1858)から約 5 年の歳月をかけて完成したものです。柱や梁などには、大黒神島の原始林から切り出された木材が使われ、村民全てが何らかの労働奉仕をしたと伝えられています。

飛渡瀬の妙覚寺は広島湾の南、江田島市のちょうど真ん中に 置する所にあります。室町時代の開基の極楽山雲華院極楽寺にその歴史は始まり、慶長元年(1596)浄土真宗に帰依し、同年本願寺第 12 代准如上人に謁(えつ)し、「寂静山見寿院妙覚寺」の寺号公称を許され今日に到っています。



尚、昼食は有名な坪希旅館で海鮮料理をいただきます。専念寺さんの御門徒で無理を言ってお願いしました。おいしいお魚がいただけるものと期待しています。メニューにはなかったのですが、特に安く提供していただけるものと嬉しく思います。

## ☆御礼

- 永代経懇志 金 拾萬円 岡埕 宏和殿 故 岡埕 千代子様 特 永代経志として
- 永代経懇志 金 拾萬円 岩崎 保夫殿 故 岩崎 幸子様 特 永代経志として
- 永代経懇志 金 拾萬円 田原 直美殿 故 中村 敏子様 特 永代経志として
- 永代経懇志 金 五萬円 高田 恵殿 故 高田 シゲコ様 特 永代経志として

## ☆御礼

- 門信徒会へ 金 一封 岡埕 宏和殿 故 岡埕 千代子様 香典返しとして
- 門信徒会へ 金 一封 岩崎 保夫殿 故 岩崎 幸子様 香典返しとして

## ☆浄土真宗本願寺派門主 大谷光真著 「あけぼのすぎ」

— 浄土真宗一口法話 —9月

「深く生きる人生それは目覚めて生きる人生」(松扉哲雄)

今年も、九月になりました。月日の経つのが早く感じられます。何か一生懸命取り組んできて、気が付いたら、何日も過ぎていたというのなら、当然のことですが、振り返ってみて、取り立てて、何かを成し遂げたということも無いのに、あつという間に日々が過ぎてしまったというのでは、どこかに、考える余地がありそうです。

日々の暮らしが、流行や他人のまねばかりで、深く、いのちを味わっていないとしたならば、空しく過ぎる人生ということになりましょう。限りない光に照らされていることに気付くとき、深い闇をかかえた私でありながら、恵まれたいのち、様々の縁に支えられた大切ないのちであると、喜びが湧いてきます。めぐみに応えて他の人々のために励む時、さらに大きな喜びがあります。南無阿弥陀佛とお念佛申しつつ、一時、ひとときを大切に、共に歩ませていただきましょう。

10年余り前の9月11日、アメリカで大変な事件が起こりました。罪のない多数の民間人を無差別に殺傷することは許されることではありませんから、厳しい処置が執られるのはやむをえませんが、怨みに報いるに怨みをもってすることにならないよう願っています。

広い立場で考えますと、双方が、唯一の神様を背景に、自分が正しいという考え方がみられます。そして更に、欧米人が、イスラム世界を適切に理解していなかったという問題も感じられます。

私達は、あらゆるいのちを等しく救わずにはおかないという阿弥陀如来さまの広いお心をいただいて、仏教徒としての生き方をしたいと思えます。

## 9月 東井 義雄師

正直者からは 正直者の光

お母さんからは お母さんの光

正直者からは 正直者の光

やんちゃ者からは やんちゃ者しか持たないやんちゃ者の光

男からは 男の光

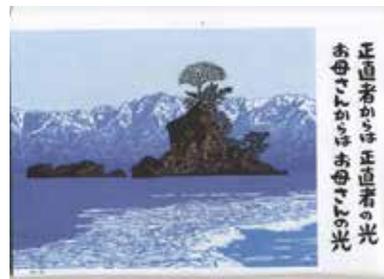
女からは 女の光

おじいちゃんからは おじいちゃんの光

おばあちゃんからは おばあちゃんの光

おとうさんからは おとうさんの光

いばったり いばられたり



いじめたり いじめられたりする関係を追っばらい  
みんな仲よく  
ひとり残らず  
存分に光を放ちあつて生きられるような  
光いっぱい地区 光いっぱいの町を  
つくろうじゃないか

## ☆インド紀行

2月26日から3月8日までの12日の間、私は仏教の聖地であるインドへと仏蹟参拝への旅行に行かせていただきました。紙の都合で今月から掲載します。

『その1』



2月25日の夜9時ごろにインドのデリー空港へと到着しました。この日はデリーのホテルで1泊だけして、次の日の26日の7時の飛行機にてラクノーという町に到着。いよいよこれから仏蹟参拝始まりです。まず最初の仏蹟地であるサラバスティという町へとバスにて移動し祇園精舎へと参拝しました。

祇園精舎はお釈迦様が生涯で25回訪れて滞在された地であります。雨季の時期になるとなかなか移動することも難しく、そして雨が降ったあとには多

くの小動物や虫が道にあらわれることもあり無様な殺生を防ぐために、一定の場所に留まり教えを説いていたのです。それから仏教教団では夏の時期には安居(あんごう)と言い、集中的に修行したり勉強したりするようになったそうです。今でもその習慣は続いており、各寺院において安居の時期には研修会や勉強会を開いたりしているのです。

この祇園精舎は私たち浄土真宗で大切にしている『仏説阿弥陀経』が説かれた場所として有名です。また西遊記で良く知られる玄奘三蔵もインド(天竺)に来られた時にこの祇園精舎へ訪れたそうです。現在はとても大きな公園のように整備がされており、いくつかの建物があつたであろうと思われる煉瓦がつまれた跡地が点在していました。お釈迦様がこの祇園精舎に訪れた様に使用していた建物の跡地が残っています。私たちはそこで『仏説阿弥陀経』をお勤めすることになりました。お釈迦様が『仏説阿弥陀経』を説かれた場所で『仏説阿弥陀経』をお勤めするということは、とても神聖な感じがしました。「ここでこのお経が説かれたんだ…」、という思いでお勤めしているとお釈迦様が私に教えを説いてくださっているような感じがして、いつもとは違う特別な感情が沸き起こり、感動のなかでお勤めさせていただきました。

